

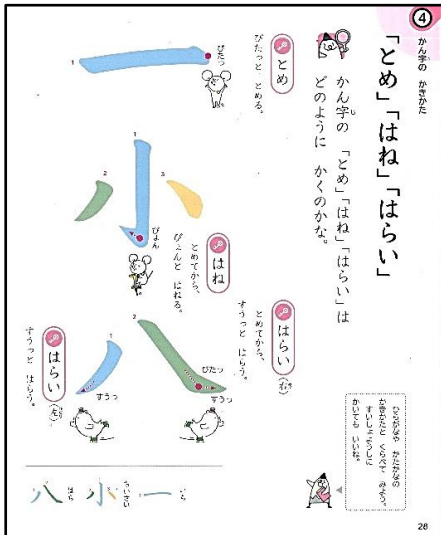
対話でつなぐ授業 ～自己肯定感を求めて～

岩瀬 竜弥



指導員訪問⑤ 3年 国語科（書写）

「かん字のかきかた『とめ』『はね』『はらい』」 竹田 実里 教諭



ようやく姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができるようになった1年生。書写の授業を通して、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる配慮が大切です。今回、ひらがなの「止め」「はね」「払い」を復習し、漢字でも共通して大切であること、そして、課題解決を通して書いた文字を見直し、ほかの文字にも生かそうと考える姿があったかどうかです。

竹田教諭は、1年生初担任。本校教員のなんと半数以上が1年経験者です。私は残念ながらありません。本時では、水書用紙や撮影した動画、オノマトペを積極的に活用して子供たちの五感を刺激しました。

まず、右払いの違う4つの「八」を例示。



②多数、④3名が「かっこいい右払い」と選択しました。「払い」の書き方を習得するために、ア 水書用紙、イ 空書き、ウ 教科書を指でなぞって、エ 硬筆、と丁寧に段階を踏んで練習しました。「とん、つう…」と各自がつぶやきながら全集中です。

そして、撮影した児童の払う姿を見せながら、T1●で立ち止まりました。協議会ではメンチメータを活用し、この教師の出が有効であったかどうか、



またまた半々に。「動画によってC5、7のように『すうっ』に着目している」、逆に『かっこよく』とは？

書く方法をもっと掘り下げるとき」と熱く協議が続きます。

指導員から、動画による気づきを深めるために、操作活動の取り入れを提案されました。「モール」や「ミニカー」を利用して「びた、すう」を



見える化しながら子供同士が対話することで、動きや力の入り方に着目するでしょう。他の字を練習して「上手になった、払いで力を抜いた」と振り返る子も。これから漢字を楽しんで書く姿が浮びますね。

- T1：●（動画①に合わせて）とん、つうー、びた、1、2、すう…こんな字がかけました。どうですか？
- C2：上手。
- T3：C4さんの「八」、どこが上手？
- C5：ちゃんとびたっと止めて、すうってはらってる。
- T6：なってるねえ。続けてどう？
- C7：最後のすうってやるところが、ちゃんと曲がってる。
- T8：みんなこれ、気付いた？C4さんが、びたっと止めて、すうってはらってるよって。
- C9：（挙手30人＝多数）
- T10：最後に右に曲がってるよって。
- C11：（挙手28人＝多数）
- T12：こんな「八」書いてました。（動画②を見せて）どう？上手？
- <略>—
- C16：（きれい）（うん）
- <略>—
- T20：最後、こんなふうにはけるようになったかな？プリント出して、自分の最後と比べてみて。何か変わった？かっこよくなった？
- C21：（うん）【授業記録より一部抜粋】

